

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS



AGUニュース第61号 [2012年4月~5月号]

2012 No. 61 青山学院大学

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL: <http://www.aoyama.ac.jp>

特集

2012年、新学部から 一期生が社会へ旅立ちます

社会情報学部4年生×稲積 宏誠学部長
総合文化政策学部4年生×杉浦 勢之学部長

2013年度就学キャンパス再配置に向けて 整備が進む青山キャンパス

TOPICS 青山学院大学のキャリア・サポート
2012年度も多角的なボランティア活動を実施します
相模原キャンパスに隣接した新たなグラウンドが完成
青山学院管弦楽団第100回記念定期演奏会

報告・お知らせ 「キルギスを送る新しい風」キルギス共和国特命全権大使講演
4月以降の問い合わせ先

INFORMATION 卒業生の皆さまへ
「青山学院 エバークリーン募金」のご案内
2012年度 オープンキャンパス開催日程



相模原キャンパス

2012年、新学部から一期生が社会へ旅立ちます

2008年、青山学院大学に26年ぶりの新学部として2つの学部が誕生しました。相模原キャンパスを拠点として、人や社会が抱えるさまざまな問題を文系、理系という既成の枠組みを越えて捉える社会情報学部と、青山キャンパスの周辺環境を最大限に生かして、文化の創造と発展に貢献する総合文化政策学部。一見まったく異なるように思えるこれらの学部は、いずれも「21世紀の社会にはどのような人材が必要とされるのか」という問いから出発しました。誕生から4年。ついに新学部から、第一期生が社会へ旅立つ時がやってきました。自身の志した進路を実現し、卒業していく学生たちと学部長が、4年間のキャンパスライフを振り返り、それぞれの学部の魅力を語ります。

社会情報学部



社会情報学部長 稲積 宏誠教授



内定先●株式会社ファーストリテイリング
社会情報学部4年 松川 愛さん



社会情報学部4年 進藤 貴志君
内定先●東京都教員

文系と理系の壁を取り払う— とても、難しい。けれど、面白い！

幅広い分野から、 自分の方向性を見つけ出す

稲積 宏誠学部長 卒業、そして就職おめでとう。今日は、社会情報学部の記念すべき第一期生であるふたりに、学生生活の4年間でどのようなものだったか聞いていきたいと思います。まず、ふたりはなぜ社会情報学部に進学しようと思ったのだろう。

松川 愛さん 高校の途中までは大学に行くつもりがなかったんですが、進路を変更して受験する大学を選ばないといけない時になっても、まだ自分の勉強したいことがわかっていなかったんです。そこでこの学部だったら、経済学やコンピュータ、心理学、数学と幅広く学ぶことができるとって選びました。

稲積 選択肢を多くしているのは社会情報学部の特徴のひとつともいえるね。けれど気をつけないと、方向性がみつけれないまま、いくつもの分野をつまみ食いするだけで終わってしまう可能性がある。もっとも教員としては、在学中に自分で考えて将来を切り開いていくトレーニングとして受け取ってほしいのだけ。松川さんは迷うことはなかった？

松川 初めのうちは、迷った末になんとも友だちと同じ授業を選んだ、ということもありました。ただ、幅広く学ぶ中で、企業や社会の仕組みを学ぶのがとても面白くなって、経済学や経営学の分野を中心に履修するようにしていったんです。そこで身につけた知識にもともと好きだった洋服の分野での仕事を重ねて考えていくうちに、アパレル業界で働くという方向性がみえてきました。

稲積 自分の方向性が定まりさえすれば、そこに他分野の知識を持つのはとても大きな強みになるからね。経済学や経営学を学ぶ場合には統計学や数学の知識は絶対必要だし、それに加えてコンピュータに関する技術や組織で働く人の心理についても学べば、将来必ず役に立つはず。進藤君はどうだろう？

進藤 貴志君 もともと数学が好きで、将来は数学の教師になりたいと思っていたので、経済や経営も学びながら数学の教員免許を取れるというユニークさが魅力でした。数学教師というと、教育学部や理学部の出身者が多いみたいですが、社会と数学とを結びつけながら教えられる新しい形の数学教師を目指しています。

稲積 人間をひも解く心理学を学ぶにも、社会をひも解く経済学を学ぶにも、実は数学が重要なんだけど、数学だけをしっかりと勉強してきた人はなかなかそれを伝えられないことがある。だから数学が得意な高校生が多くなってしまふ（笑）。

進藤 僕のまわりにも「数学は嫌い、全然ダメ」という人がたくさんいました（笑）。純粋な理系の学部だと、数学が苦手といっても、それはあくまで「理系としては」というものだし、ある程度の覚悟もしていると思うんです。でも、社会情報学部で数学がダメという人たちは、本当に数学に触れたくもないみたいなんですね。そういう人と一緒に学んだことは、これから数学教師として生きていく中で、とても貴重な経験だったと思います。

稲積 松川さんはアパレル業界で、進藤君は数学教師。一期生は、情報関連、金融、



メーカー、マスコミへと本当に多彩な進路に進んでくれました。今はどの学部を出たからどの業界、というのはなくなってきているけど、それでもここまで進路が混在する学部はめったにないかもしれないね。

もともと社会情報学部は、人や社会が抱えるさまざまな問題を文系、理系という既成の枠組みを越えた立場から捉えられる人材を生み出していこう、という想いで誕生しました。そのためには、論理的に物事を考える力、多くの人々を納得させる力といった基礎的な力が何よりも重要になってくる。そこで英語はもちろんのこと、数学、統計学も必修にして、徹底的に鍛えようと頑張っていたんだけど、その熱い思いは君たちに伝わっているかな？

松川 ちゃんと届いていると思いますよ。英語の授業はつらかったけど（笑）。

進藤 うん、英語は本当につらかった。厳しいを通り越して、つらい（笑）。

稲積 英語は今や世界共通の言葉となっているから、大学在学中にある程度は英語を使えるようにと、「普通じゃない」英語教

育を目指しました。いろんな感想が聞こえてくるけれども、少なくとも「普通じゃない」は達成できていそう（笑）。

ふたりは数学や統計学に抵抗がなかったようだけれども、それらが苦手な逆で英語が得意だったという人もいます。つらいと思った授業もいつかその効果を実感することがあるだろうし、困った時には進藤君がやってくれていたように、苦手分野を学生同士で教えあうことができる。これも多様な学生が集まる社会情報学部ならではのかもしれないね。

先生と学生との距離がとにかく近い！

松川 学生だけでなく、先生たちもさまざまな専門分野の人たちが集まっていますね。先生との距離が近かったので、興味が持てなかった授業も乗り越えることができました。

稲積 研究対象も方法論もまったく違う人たちが集まっているから、同じ学部の先生とは思えないかもしれない。でも、学生指導

に熱意を持っているというのは全員に共通している。大学教員は研究が第一というイメージがいまだに根強いけど、社会情報学部には、「泥臭くても実力が身につく教え方をしたい」というような熱い先生が揃っていたでしょ？カリキュラム上も、例えば「データ分析」の科目は情報科学の教員ではなくて、実際に社会現象や人の心理、行動を分析している教員に受け持ってもらおうとか、実験的な試みをいくつもしていたんだよ。

松川 それはまったく気づきませんでした（笑）。でも授業は大変だったけれど、周りには多彩な友人がいて、変に競走するイメージもなく、雰囲気も居心地もいい4年間でしたよ。友だちと期間限定のカフェを開いたのも、とても思い出に残っています。

進藤 文系、理系の垣根を超えて先生が集まっているんだと改めて感じたのは、卒業研究発表会の時でした。僕の研究に、専門が異なる先生が意見を言うてくださっただけでなく、その場で先生方が議論を始めたりにして、多彩な先生が揃っている社会情報学部ならではのことに思いました。僕たちは卒業しますが、この先ずっと誇りに思える学部に発展させてください。

松川 そう、「青学の社情出身」が、独特の価値を持つようになるといいな。それには私たちが卒業生として、頑張らなきゃならないけれど。

稲積 2012年度からの新しいカリキュラムでは、この環境をさらに生かしていくために、違う専門分野の先生たちが協力してつくるコラボレーション型授業を開講する予定で準備を進めています。これもやはり実験的な取り組みだけど、社会情報学部は学生とともに学部そのものも成長し続けるものだと思っています。きみたちもこれから仕事にしっかりと取り組み、その過程の中で学び、成長し続けていってください。

総合文化政策学部



総合文化政策学部長 杉浦 勢之教授



総合文化政策学部4年 内定先●東急不動産株式会社 片岡 純一君



総合文化政策学部4年 内定先●キャンレ株式会社 朝重 マリステラさん

キャンパスは青山の街、教室は創造の現場！

学術の知と現場の知を結びつける

杉浦 勢之学部長 ついに総合文化政策学部から卒業生が社会に出発する時がやってきました。学部創設の何年も前から準備にかかわってきましたが、これから学部の真価が一期生を通じ、評価いただけるものと期待しています。

この4年間は、とてもアクティブに、時にアクティブすぎるほどに動き回るきもち一期生に振り回されました(笑)。

片岡 純一君 わざと先生たちを振り回そうとしていたわけではないです(笑)。でも、新しいものにチャレンジして主体的に携わっていくことが好きだったので、一期生として学生生活を過ごして、学部のこれからの形を作り上げていくことができたのは良かったです。

朝重 マリステラさん 教室の中で学ぶだけではなく、実践に結びつくチャンスを得られるのは総合文化政策学部の大きな特徴だと思います。特に「ラボ・アトリエ実習」では、「イベントラボ」に所属して青山・原宿・渋谷の街を活性化させるイベントを企画・実施しました。放送や広告、アートなどの第一線で活躍している方々と出会い、実際に文化が創造される現場に立ち会うことができました。

杉浦 日本の大学教育は、創造性を養うという視点を置き去りにしてきました。総合文化政策学部はまさにその創造性に満ちた人間を生み出していくという挑戦に始まった学部ですが、創造性というのは自身の中に育っていくものであって教えるものではない。しかしサポートすることはできません。そのための学部を象徴する授業が「ラボ・アトリエ実習」です。

この実習で用意されるプロジェクトはす

べて、教材として用意されたものではありません。教員自身が専門家のひとりとして取り組んでいるプロジェクトに学生がかかわっていくというものです。最初のうちこそ教員がリードしますが、動き始めると学生が先頭に立ってグイグイと引っ張っていくケースもあって、片岡君はその典型でしたね。

片岡 昔から音楽に興味があったので、自分たちでコンサートを企画・運営するという「音楽ラボ」に所属しました。学部としてさまざまな文化機関や企業と連携しているのだから大丈夫と簡単に考えていたのですが、自分たちで一から作り出すという感じで、うまくいかない場面もたくさんありました。最終的には作曲家として活動している先生に協力してもらい、青山の街で収録した音をベースにした環境音楽と、写真・映像を組み合わせたコンサートを開催し、多くの方に来てもらえました。ノウハウを身につけたという以上に、自分たちで何かをつくり出しているという姿勢、考える力を身につけることができましたね。

杉浦 先生もずいぶんやきもきしたみたいですが、教材ではない本物のプロジェクトですから、成功するばかりではありません。成功・失敗を含めて、夢にみたことを実現しようという動き自体が創造の現場であり、その実現のためには組織をまとめあげる人間力、資金を調達し、管理する政策力が必要になるのだということを、社会に出る前に学んでもらえたのなら、十分成果はあったのだと思います。

人と人とのつながりが、新たな文化を創造する

朝重 プロジェクトを進める上では、周りの



友だちからも多くのことを学びました。同年代なのに、こんなに才能ある人がいるのかと感心させられてばかりでした。友だちでもあると同時に、先生でもあるような、そんな感じですね。

片岡 うん、一緒に学ぶ仲間はこの学部の一番の魅力だったと思う。みんな自分の個性をはっきりとだしているの、お互いに刺激を受けながら学生生活を送ることができました。そのぶん学部のメンバーで固まってしまう傾向もあるので、他学部・他大学の人たちともっとかかわっていくようにしていった方がいいと思う部分もあります。

朝重 私は1年生のころからいろいろな業界でインターンシップをしたり、通訳のアルバイトをしたりしてきて、その過程でも多くの人に会い、励まされ、力をもらいました。後輩のみんなにも、人とのつながりをもっと意識してもらえればと思っています。

杉浦 確かに主張のはっきりした人が多いかもしれない。しかしそうでない学生もうちにはいっぱいいます。内部に秘めたものをしっかり学習し、蓄えてきた学生もいろいろいます。それがこれから芽生えてくるのも楽しみです。そういった個性が集まった集団ですので、進路も多様になっています。総合文化政策という名前だけからみると公務員や文化産業に行くのが主流のように思われがちですが、卒業生にはさまざまな企業・

団体の中で創造性を発揮させ、周りの人たちを文化力で惹きつけているような仕事をしてほしい。その意味ではふたりとも、進路の選び方も含めてこの学部のコアとなる部分を感じ取ってもらえたようで、なるほどと思いましたね。

ところで、ほかの授業の話が一切出てこないけれど、ラボ以外の授業は全然印象に残らなかったかな(笑)。

朝重 そんなことないですよ(笑)。アートやメディアのこと以外にも、都市・建築や哲学も学ぶことができるという幅広さが魅力でした。幼いころは外国に住んでいたこともあり、新しいことに触れていきたいという気持ちが強かったんです。いくつかの分野を勉強することで視野を広げ、それらを結びつけていきたいと思っていました。

片岡 僕もまちづくりに関する科目からアート系、経済系の科目まで、さまざまな科目を履修しました。コンサート企画を手伝ってもらった先生とも出会えたり、就活に向けて志望業界を決めるきっかけとなった授業もありました。ゼミではエンターテインメントのプロデュースを学びました。クリエイターが作り出したものをいかに多くの人に紹介していくか、これは実習でも体験したことだったので、ゼミとラボをうまく結びつけることができました。

朝重 私はゼミではCSR(企業の社会的責

任)を勉強しました。企業は地球環境のために何をしているのか、貧困層に対してどんな活動をしているのかなど、自分が興味を持った企業の社会的活動を調べて、みんなで意見を出し合い、改善策を考えました。CSRは企業にとって重要な課題になってきています。内定先では広報に携わりたいと思っています。学んできたことをいかして、企業のイメージを向上させていきたいです。

杉浦 これから一期生のみんなは卒業して、数年間は仕事にかかりっきりになると思います。でもある程度時間がたったら、また大学とのかかわりを持ってほしいですね。総合文化政策学部では外部機関と連携していくために青山コミュニティラボ(ACL)という学内組織を設置しています。位置づけとしては組織というより、創造性を発揮させたいと思っている人たちが集う「場」といったほうがいいかもしれない。多様な進路に進んだこの学部の卒業生、そしてその卒業生をみて面白い、一緒に何かを生み出したという人たちが連鎖的に集まってくる。そしてそこから多様なプロジェクトが生まれ、新たな文化を創造していく。そういったことができればいいですね。そこまでいくのが我々の教育活動だと思っています。青山の土地で過ごし、青山の空気を吸って、青山ならではの学部で育ってきたきもちに、大いに期待しています。

2013年度就学キャンパス再配置に向けて整備が進む青山キャンパス

2013年度就学キャンパスの再配置に備え、青山キャンパスでは現在、大規模な整備事業が進んでいます。2012年度には、約2年半前から工事が進められている新校舎「17号館」の竣工に続き、既存校舎の耐震補強工事や改修工事が年間を通して行われます。

当初、就学キャンパスの再配置は2012年度を予定していました。しかしながら、東日本大震災の影響により、17号館などの建築工程に約5ヶ月の遅れが生じ、計画していた一連の諸工事が2012年度開始前には完了できないこととなりました。現在の進捗では17号館の竣工は4月上旬の予定で、整備の完了した教室と学生食堂、スチューデントセンターなどから段階的に使用してまいります。

17号館は地上6階の低層棟と地上12階の高層棟からなるツインタワー構造となっています。低層棟をキャンパスの銀杏並木側に配置し、壁面に反射素材を貼ることで棟の谷間となる部分も含めて建物全体に陽の光がいきわたるように設計しています。その他にも屋上緑化やソーラーパネルの設置など、建物のさまざまな箇所に省エネルギー設計を施した環境調和型の校舎です。

17号館完成後に行う改修工事は、授業・学生生活にできる限り影響を与えないよう、夏期・春期休業期間を利用しながら実施することとなります。2013年4月から万全の状態で学生を迎えられるように体制を整えてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

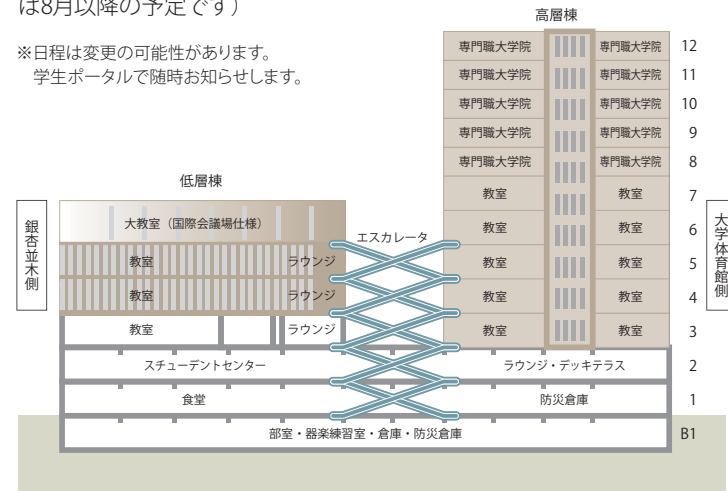
17号館 今後の予定

献 堂 式：4月26日(木)

使用開始予定日：5月7日(月)

使用開始後は、学務部教務課・教職課程課、学生部学生課・厚生課、進路・就職センター、大学院事務室、国際交流センターおよび一部の授業教室の場所が変更となるのでご注意ください。(専門職大学院事務室の移転は8月以降の予定です)

※日程は変更の可能性があります。
学生ポータルで随時お知らせします。



17号館室内レイアウト（一部）

階段 エレベーター エスカレーター 多目的トイレ 男子トイレ 女子トイレ 教室

※なお、一部の仕様および室内レイアウトは検討・計画のため、変更の可能性があります



B1F 課外活動フロア

17号館地下1階には学友会用の部室（12室）、学友会ラウンジ、音楽練習室、および和室を設置します。音楽練習室については18室設け、そのうち5室には高音音仕様が施されています。これまで青山キャンパスには少なかった常時利用可能な課外活動用スペースとなります。そのほかに、このフロアには大規模震災などに備えた防災倉庫を整備し、非常用食料・水などを備える予定です。

1F 学生食堂

現在の7号館と14号館の地下に広がる既存の学生食堂に加え、17号館1階に新しくオープンする学生食堂には、約1000の座席を用意します。新学生食堂のメニューは栄養を重視した定食を中心に、その提供スピードも考慮したラインナップを予定しています。また、インテリアについては耐久性だけでなくデザイン・快適性も重視しました。一方、既存の学生食堂においても人気定番メニューを残しつつ、一部メニューのリニューアルを予定しています。さらに、ファストフード店舗の導入を検討するなど、より一層充実した食事環境を提供できるよう準備を進めています。



2012年度 主な工事予定

- 1号館** 5月～7月 耐震補強・外壁改修
8月～9月 購買会・ラウンジ新設
- 2号館** 8月～9月 外壁改修
2013年2月～3月 パソコン教室増設
- 3号館** 8月以降 17号館へ移転
- 5号館** 8月以降 17号館へ移転
- 7号館** 8月以降 耐震補強
学生相談センター・保健管理センター改修
学生ロビー改修
- 8・9号館** 5月以降 図書館学習室（仮称）新設
AVライブラリー（仮称）移転
- 11号館** 8月～9月 教室等改修
- 14号館** 8月～9月 教室等改修
学食改修
- 15号館** 2013年2月～3月 CALL教室増設

2F スチューデントセンター

これまで青山キャンパス内の各校舎に分散していた学生窓口（学務部、学生部、大学院事務室、専門職大学院事務室、進路・就職センター、国際交流センター）を集約してスチューデントセンターを設置します。授業・学習、課外活動、国際交流、進学、就職など、学生生活に関わるあらゆるニーズに応えるワンストップ型のサービス提供を目指します。また、同フロアにラウンジと屋外デッキテラスを設け、友人や教員と授業の合間などに気軽に集い、語り合える場となることを期待します。

3F-5F 教室・ラウンジ

3階から5階にかけては、機能性を重視した最新の機器を備えた様々なサイズの教室と3つの特色あるラウンジを設置しています。教室の照明および冷暖房はシステム制御されるなど、省エネルギーに配慮した仕様とするほか、無線LANによるネットワーク環境も整備していく予定です。ラウンジはそれぞれ機能別に異なるインテリアを配しており、グループ学習を想定したラウンジでは、可動式のテーブルやホワイトボードを配置し、プレゼンテーションの練習やディスカッションなど、自主的な学習活動をサポートする仕様としています。

まだまだ支援が必要な被災地 2012年度も多角的なボランティア活動を実施します



瀬川 達也君
AGUボランティア・ステーション代表
経営学部経営学科2年

東日本大震災後、学生によるボランティア活動のサポートを目的としてAGUボランティア・ステーションが設置されました。ステーションの前身となったのは震災前に行われた宮城県・新燃岳でのボランティア活動でした。震災後は学生スタッフが中心となって被災地のニーズに応じた活動を企画し、2011年の夏休みには約400名の青学生がボランティア活動に取り組みました。

石巻市では、津波で泥に埋もれた缶詰の選り分け作業や、商店街の復興支援を企画。舗装ブロックを掘り起こして洗浄する作業を、1週間ずつ交代で計6週間かけて、商店街の街並みを復元しました。多賀城市では、保護者が働きに出ている子どもたちに少しでも楽しい夏休みを過ごしてもらおうと遊び・学習のサポートを行い、気仙沼市でも中学校で9日間の補講講座を行いました。大船渡市や山元町では、外部のNPO団体と連携し、仮設住宅の人たちが交流できる場づくりや炊き出しなど、地域に根づいた活動を実施しました。

これらの活動は多くの人から感謝の言葉をいただきましたが、現地に赴いての活動は授業期間にはなかなか実現できません。そこで秋

以降、キャンパスの中でも何かできることはないかと考えたのが、津波で汚れた写真を洗浄するボランティアでした。この活動は青山・相模原の両キャンパスで行い、275人もの学生が参加してくれました。

震災から1年がたち、東京に住んでいる私たちには震災が遠い記憶になってきていますが、被災地の人たちはまだまだ支援を必要としています。2012年度もさまざまな活動を企画中で、4月にはステーションの活動説明会を開催予定です。現在、震災に関わる支援活動としては、以下の3つを計画しています。

①石巻市でのスタディツアー

山形大学との協働で、商店街の復興支援策の一環として、全国の修学旅行の生徒に訪問してもらおうと企画しています。

②洗浄済み写真の返却

青学生の手で洗浄した写真を持ち主に返却するための活動で、7～8月に、陸前高田市で写真展示などのイベントを開催予定です。

③仮設住宅内の商店の情報発信

気仙沼市で商店を営業していた方が仮設住宅内で営業を続行しているものの、周知されていないので情報発信をお手伝いします。

私自身ボランティア活動に参加することで、ささやかでも社会の役に立っているのだと、やりがいを感じることができました。ぜひ多くの青学生に参加してもらいたいと思っているので、これからのボランティア・ステーションにご注目ください！



相模原キャンパスに隣接した新たなグラウンドが完成

青山学院大学ではこの度、相模原キャンパスに隣接した用地を整備し、「相模原グラウンド」をオープンしました。キャンパスから約3kmの距離にある「緑が丘グラウンド」、町田市内の「町田グラウンド」に引き続き、3つ目のグラウンドとなります。

この用地には2003年の相模原キャンパス開設当時から、テニスコートやアーチェリー場、フットサルコートが備えられていましたが、この度、400m陸上トラックと8レーンの100m直走路、勾配を付けたクロスカントリーコースを新設し、スポーツ活動の新たな拠点として生まれ変わりました。夜間練習のための照明設備も備えているため、陸上競技部の練習環境が飛躍的に向上します。



青山学院管弦楽団第100回記念定期演奏会を5月20日(日)に開催。 会場はクラシック音楽の殿堂サントリーホール！



立原 寿亮君
青山学院管弦楽団 団長
教育人間科学部教育学科2年

青山学院管弦楽団は、5月20日(日)に「第100回記念定期演奏会」を行います。当楽団が発足したのは、戦後からの復興期にあった1954年です。私たち現役団員は、「第100回」という記念すべき舞台に立てる喜びを感じながら、60余年にわたって積みあげられてきた伝統の重みをしっかりと受けとめ、皆さんの期待に応えるべく団員一丸となって準備を進めています。また、歴代の先輩方、日ごろから演奏をご指導くださっている先生方には、あらためて深い感謝を感じています。

今回は、指揮に外山雄三氏、ピアノに中村紘子氏をお迎えし、クラシック音楽の殿堂・サントリーホール(大ホール)で演奏するという、学生が易々と実現することのできない、特別な環境での公演となります。外山氏は日本クラシック音楽界の最高峰であるNHK交響楽団の正指揮者、中村氏は日本に「ピアニスト」の概念を広めた偉大なピアニストであり、アマチュアが共演できる機会は、そう得られるものではありません。また、サントリーホールの大ホールでの公演も、一定の条件をクリアしなければ叶いませんが、第100回の歴史的価値が認められ実現となりました。青山学院管弦楽団としては、1987年の第51回定期演奏会以来、25年振りのサントリーホールでの公演となります。

曲目は、マーラーの交響曲第1番ニ長調「巨人」、ベートーベンのピアノ協奏曲第5番変ホ長調「皇帝」、ワーグナーの楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲の3曲です。「巨人」は、エポックメイキングな作曲家であったマーラーの世界を存分に楽しめる作品です。ダイナミックさと独創性を備えた楽曲を100人以上の大編成でお届けしますので、どうかご期待ください。「皇帝」では、中村氏のピアノソロ演奏にぜひともご注目いただき、圧倒的な表現力の演奏によって、誰にも馴染みのあるメロディーがどのような音

楽に昇華されるのか、楽しみにしてください。「ニュルンベルクのマイスタージンガー」は、町工場の職人たちを主人公にした喜劇オペラです。パンフレットでストーリーを一度お読みいただければ、職人たちの活気ある様子が表現された楽曲の世界観をいっそう楽しんでいただけるはずです。

本番が近づき、私たち楽団員の練習にもいっそう熱が入ってきました。通年のオフシーズンを返上した1月の練習、2月末から3月上旬にかけて行った合宿では、全員で高いレベルを追求する良い雰囲気が出てきたと思います。また、演奏技術を磨くだけでなく、楽曲の関連資料をみんなで持ちよって勉強するなど、曲の背景を理解しようとする姿勢も共有できています。

音楽には、心をいやしたり、勇気を与えたりする不思議な力があります。会場とステージが一体となって音楽を楽しむ——そんな素敵な時間を皆さんと共有できるよう、最高の演奏をお届けするつもりです。それが、お世話になった方々に「感謝」を示す一番の方法であると考えています。皆さまお誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

青山学院管弦楽団第100回記念定期演奏会

2012年5月20日(日) 13:30開演(12:45開場)
サントリーホール 大ホール

■指揮：外山 雄三
■ピアノ：中村 紘子
■曲目：マーラー／交響曲第1番ニ長調「巨人」
ベートーベン／ピアノ協奏曲第5番変ホ長調「皇帝」
ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」
第1幕への前奏曲

全席指定 A席2,000円 B席1,500円 C席1,000円
「チケットぴあ」より発売中

チケットぴあ：http://t.pia.jp/
Pコード：164-348
電話予約：0570-02-9999

「キルギスが送る新しい風」モルドガジェフ キルギス共和国特命全権大使講演

2003年に始まった本学の「各国大使講演シリーズ―大使と語る」(青山学院大学、毎日新聞社、ジャパントाइムズ共催、外務省後援)は、今回で11回目となりました。2011年12月6日(火)、独立20周年を迎えたキルギス共和国のリュスベク・モルドガジェフ駐日特命全権大使をお招きし、「キルギスが送る新しい風」と題してご講演いただきました。

モルドガジェフ大使は、1993年にキルギス共和国外務省に入られたあと、日本に留学されて本学国際政治経済学研究科で修士号をとられています。また、伊藤定良前学長が挨拶でふれたように、この講演の1ヶ月前に、本学はキルギスのビシュケク人文大学と一般協定を締結し、本学とキルギスの関係が始まったばかりです。講演に先立ち、本学大学院で指導にあたった袴田茂樹教授が「なぜ今キルギスなのか」という短い解説を行いました。

大使は講演の冒頭で、東日本大震災の際、日本人が強い助け合いの精神を発揮したことをたたえ、キルギスからミネラルウォーターをチャーター便で送ったことなどを述べられました。キルギスでは10月の大統領選挙でアルmazベク・アタンバエフ氏が選ばれて、12月1日に大統領に就任しています。「チューリップ革命」(2005年)に始まり、2010年からのローザ・オトunバエヴァ氏の暫定大統領をへて今回の大統領選挙に至る、キルギ

スの独裁主義体制から議会制民主主義への移行は、中央アジアにおける民主化のモデルとみられています。講演では、今後さらに、民主主義的な価値観の普及、議会制度・法制度の確立、そして経済的安定などが進められると述べられ、そのためには、IMFや、日本との関係強化をふくむ、米、ロ、中などの国々との協力が必要であることを強調されました。

講演のあと、会場から日本との国際交流や経済協力の展望、今回の大統領選挙の分析、米、ロへの基地の提供はいつまで続くのかといった質問と、キルギスから日本が得た東日本大震災時の協力へのお礼が大使にありました。

同うところによれば、モルドガジェフ大使は在京の駐日大使のなかで2番目に若い大使であるとのこと。大使として、また本学大学院出身者のお一人として、今後ますますのご活躍をお祈りします。

(国際政治経済学部教授・前副学長 土山 実男 記)



2011年度 退職専任教員

- 田中 啓史 文学部英米文学科教授
中野 康司 文学部英米文学科教授
○山内 一芳 文学部英米文学科教授
市川 誠 文学部英米文学科助手
○安田 尚道 文学部日本文学科教授
○伊藤 定良 文学部史学科教授
北村 哲 教育人間科学部助教
高畠 瑠依 教育人間科学部助教
○石井 信之 経済学部経済学科教授
○佐々木高雄 法学部法学科教授
○関 英昭 法学部法学科教授
○手塚 和彰 法学部法学科教授
赤間 聡 法学部法学科助教
○袴田 茂樹 国際政治経済学部国際政治学科教授
- 石崎 晴己 総合文化政策学部総合文化政策学科教授
○東方 敬信 総合文化政策学部総合文化政策学科教授
○蔭山 友行 理工学部教授
○中村 功 理工学部教授
○高野 恭一 理工学部物理・数理学科教授
磯島 伸 理工学部物理・数理学科助教
村中 隆弘 理工学部物理・数理学科助教
山岡 和貴 理工学部物理・数理学科助教
○青木 和巳 理工学部物理・数理学科理工学部講師
○井出 英人 理工学部電気電子工学科教授
浅野 裕俊 理工学部電気電子工学科助手
三瀬 貴寛 理工学部電気電子工学科助手
○岡田 昌志 理工学部機械創造工学科教授
- 金田 忍 理工学部機械創造工学科助手
松浦 峻 理工学部経営システム工学科助教
○水澤 純一 理工学部情報テクノロジー学科教授
藤本 悠 理工学部情報テクノロジー学科助教
矢吹 太朗 理工学部情報テクノロジー学科助教
阿部 慶賀 情報科学研究センター助教
○前田 昇 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻教授
久保山力也 法務研究科法務専攻助手

その他の月日をもって退職された教員

- 夏目 博明 法学部教授
戒野 敏浩 経営学部経営学科教授
片山 英木 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻教授
河合 重和 理工学部化学・生命科学科助手
小野寺 玄 理工学部化学・生命科学科助教

Club & Information

問い合わせ先
学生部学生課
TEL.03-3409-7835

学生団体の活動予定は、今後変更になる可能性があります。

主要活動予定(2012年4月～5月)

合気道部 第50回全日本合気道演武大会(5月)
アイススケート部(フィギュア部門) 第40回関東学生フリースケーティング選手権大会(5月)
アイススケート部(アイスホッケー部門) 第61回関東大学アイスホッケー選手権大会(4月)
居合道部 第50回東京都居合道大会(4月)
空手道部 東日本学生空手道選手権大会(5月)
剣道部 関東学生剣道選手権大会(5月)
拳法部 第25回東日本大学リーグ戦(5月)
硬式庭球部 平成24年度関東学生テニストーナメント大会予選(4月)
硬式野球部 東都大学野球春季リーグ戦(4月-5月)
サッカー部 関東大学サッカーリーグ戦(4月-5月)
自動車部 全関東学生ジムカーナ選手権大会(5月)
射撃部 平成24年度春季関東学生ライフル射撃選手権大会(5月)
柔道部 東京学生柔道優勝大会(5月)
準硬式野球部 第54回関東地区大学準硬式野球選手権大会(4月)
少林寺拳法部 少林寺拳法関東学生大会(5月)
水泳部 東京都春季記録会(4月)
ソフトテニス部 平成24年度関東学生春季リーグ戦(5月)
卓球部 関東学生春季卓球リーグ戦(5月)
テアリーディング部 第6回アジアインターナショナルオープンチャンピオンシップ(5月)

軟式野球部 春季リーグ戦(4月-5月)
バスケットボール部(男子) 第28回京王電鉄杯10大学フェスティバル(4月)
第61回関東大学バスケットボール選手権(5月)
第52回関東大学バスケットボール新人戦(5月)

バドミントン部 関東大学バドミントン春季リーグ(4月-5月)
バレーボール部 春季関東大学バレーボールリーグ戦(4月-5月)
ハンドボール部 関東学生ハンドボールリーグ春季大会(4月)
フェンシング部 関東学生リーグ戦(5月)
ボクシング部 関東大学ボクシングリーグ(5月)
洋弓部 関東学生アーチェリー連盟男女リーグ戦(4月-5月)
ヨット部 関東学生ヨット春季選手権大会(5月)
陸上競技部(短距離部門) 第46回織田記念国際陸上競技大会(4月)
第91回関東学生陸上競技対校選手権大会(5月)

レスリング部 JOC杯ジュニアオリンピック(4月)
東日本学生リーグ戦(5月)

青山学院大学アナウンス研究会 ALL青山発表会(4月)
青山学院大学囲碁同好会 学生本因坊決定戦関東予選(5月)
オーケストラ部 第100回定期演奏会(5月)
競技ダンス部 東都大学学生競技ダンス選手権大会(4月)
グリーンハーモニー合唱団 東京六大学混声合唱連盟第54回定期演奏会(5月)
ロイヤルサウন্ズジャズオーケストラ 東京大学五月祭出演(5月)

主要活動報告(2012年1月～3月)

アイススケート部(アイスホッケー部門) 第84回日本学生氷上競技選手権大会ベスト16(1月)
陸上競技部(中長距離部門) 第88回東京箱根間往復大学駅伝競走総合5位(1月)

4月以降の問い合わせ先

本学ではこれまで、代表番号(03-3409-8111、042-759-6000)から電話交換手が各事務局へ電話をとりついできましたが、2012年4月1日より直通ダイヤルインで対応いたします。ご用件に応じた事務局へご連絡ください。
在学生の方は、休学中・外国留学中等の事情がある場合を除き、原則として窓口へ直接お越しください。

青山キャンパス	問い合わせ内容	問い合わせ先	電話番号
	○修学に関すること(休学・復学、退学・再入学、履修、成績管理、卒業延期制度等) ○卒業証明書・成績証明書の発行に関すること	学務部教務課	03-3409-7830
	○教員免許状・司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員に関すること ○教員免許状・各種資格に係る証明書の発行に関すること	学務部教職課程課	03-3409-9634
	○課外活動に関すること(クラブ・サークル活動、アドバイザー・グループ、課外教育プログラム等) ○学費相談、分納・延納に関すること	学生部学生課	03-3409-7835
	○学生生活に関すること(奨学金、学生証、遺失物、アルバイト、住所変更、傷害保険等)	学生部厚生課	03-3409-7945
	○大学院生の修学・学費・学生生活に関すること(休学・復学、退学・再入学、履修、成績管理、学費、奨学金等) ○修了証明書・成績証明書等、各種証明書の発行に関すること	大学院事務局	03-3409-7831
	○専門職大学院生の修学・学費・学生生活に関すること(休学・復学、退学・再入学、履修、成績管理、学費、奨学金等) ○修了証明書・成績証明書等、各種証明書の発行に関すること	専門職大学院事務局	03-3409-8025
	○進路・就職支援に関すること(就職、求人、キャリア支援、インターンシップ等) ○卒業生の就業支援に関すること	進路・就職センター	03-3409-7846
	○留学・国際交流に関すること	国際交流センター	03-3409-8462
	○キリスト教活動・礼拝に関すること	宗教センター	03-3409-6537
	○学生相談、カウンセリングおよびそれらの受付に関すること	学生相談センター	03-3409-8653
	○救急処置、健康診断、健康相談、精神衛生相談に関すること	保健管理センター	03-3409-7896
	○図書館の利用に関すること	図書館本館	03-3409-7858
	○学内PC施設のサポートに関すること(ネットワーク管理、ソフトウェア提供、パスワード管理等を含む)	情報科学研究センター	03-3409-7850
	○語学教育支援に関すること ○CALL教室・AVライブラリーに関すること	外国語ラボラトリー	03-3409-7938

相模原キャンパス	問い合わせ内容	問い合わせ先	電話番号
	○修学に関すること(学部・大学院とも)(休学・復学、退学・再入学、履修、成績管理、卒業延期制度等) ○卒業証明書・修了証明書・成績証明書の発行に関すること	学生支援ユニット学務グループ	042-759-6003
	○教員免許状・司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員に関すること ○教員免許状・各種資格に係る証明書の発行に関すること	学生支援ユニット学務グループ 教職課程担当	042-759-6032
	○課外活動に関すること(クラブ・サークル活動、アドバイザー・グループ、課外教育プログラム等) ○学費相談、分納・延納に関すること ○学生生活に関すること(奨学金、学生証、遺失物、アルバイト、住所変更、傷害保険等)	学生支援ユニット学生生活グループ	042-759-6004
	○進路・就職支援に関すること(就職、求人、キャリア支援、インターンシップ等) ○卒業生の就業支援に関すること	学生支援ユニット進路グループ	042-759-6036
	○留学・国際交流に関すること	学生支援ユニット国際交流グループ	042-759-6034
	○キリスト教活動・礼拝に関すること	宗教センター	042-759-6009
	○学生相談、カウンセリングおよびそれらの受付に関すること	学生支援ユニット健康管理グループ (学生相談センター)	042-759-6012
	○救急処置、健康診断、健康相談、精神衛生相談に関すること	学生支援ユニット健康管理グループ (保健管理センター)	042-759-6011
	○図書館の利用に関すること	教育・学習支援ユニット図書グループ (万代記念図書館)	042-759-6027
	○IT講習会に関すること ○学内PC施設のサポートに関すること(ネットワーク管理、ソフトウェア提供、パスワード管理等を含む)	教育・学習支援ユニット情報教育支援グループ (情報科学研究センター)	042-759-6006
	○語学教育支援に関すること ○CALL教室・AVコーナーに関すること	教育・学習支援ユニットメディアライブラリーグループ	042-759-6005

	問い合わせ内容	問い合わせ先	電話番号
	○ペアレソソウィークエンドに関すること ○入学式、学位授与式に関すること	庶務部庶務課 企画運営担当	03-3409-8568
	○青学オープンカレッジに関すること	青学オープンカレッジ事務局	03-3409-8501
	○本学の歴史に関すること ○明治から昭和(戦前期)にかけてのメソジスト教会に関すること	資料センター	03-3409-6742
	○青山学院校友会に関すること	校友センター	03-3409-6645
	○大学同窓祭(AOYAMA GREEN FESTIVAL)に関すること	校友会大学部会・大学同窓祭実行委員会事務局	03-3409-8990
	○寄付金・募金に関すること	募金事業局	03-3409-6208

本ページに掲載していない事務局につきましては、本学のウェブサイトをご覧ください。ご理解と協力をお願いいたします。

卒業生の皆さまへ

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織されています。校友会費は在学中の学費に含まれているので、卒業後に新たに納めていただく必要はなく、すべての卒業生が正会員として迎えられます。国内56か所・海外18か所の地域支部のほか、各学部・学科ごとの同窓会や、職種別団体・部活動OB団体等の参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っていますので、ぜひ積極的に校友会各組織にご参加ください。

青山学院の広報誌

卒業後、『AGUニュース』の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生の皆さまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』

住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。

住所変更・発送に関する問い合わせ先
青山学院校友センター TEL.03-3409-6645

『青山学報』

1916年に創刊した青山学院の機関誌で、幼稚園から大学まで青山学院全体の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2000円です。

定期購読に関する問い合わせ先
青山学院購買会 TEL.03-3409-4401

2012年度 ペアレンツウィークエンド

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況を保護者の皆さまにお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に懇談会を実施しています。

2012年度ペアレンツウィークエンドは5月下旬からの開催を予定しており、対象の方には4月下旬以降にご案内いたします。また、下記ウェブサイトでも随時、情報を更新していきます。

<http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/index.html>
【問い合わせ先】庶務部庶務課 TEL. 03-3409-8568

2012年度 学年初頭行事

2012年度の授業は4月7日(土)から開始となります。授業開始に先立ち、3月29日(木)～4月6日(金)に書類配布や履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。学部・学科、学年によってスケジュールが異なるので、学生ポータル「2012年度初頭行事日程」を確認し、指定の日時・場所に必ず登校してください。

「青山学院 エバーグリーン募金」のご案内

「青山学院 エバーグリーン募金」のもとに、目的別の募金活動を行っております。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

本多記念国際会議場建築募金

青山キャンパス17号館6階に設けられる「本多記念国際会議場」(座席数562席)の建築資金に充当する募金です。(銘板の第一次受付は、1月末をもって終了しました)

青山学院維持協力会募金

青山学院の財政基盤確立のために会員となってご寄付いただき、青山学院をサポートしていただく募金です。

青山学院奨学金募金

勉学・課外活動に燃える青山学院生を経済的側面からご支援いただくことにより、学生生活の充実を図ることを目的とした募金です。

ご協力いただける場合は募金事務局へご連絡ください。資料をお送りいたします。

募金事務局(間島記念館1階)
TEL.03-3409-6208 FAX.03-3409-3890

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、一般的教育ローンより有利な条件を設定したものです。青山学院大学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することのないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

【特徴】

1. 一般的教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
3. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振り込まれます。
4. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

【必要書類】

1. 資金使途確認資料…学費納付書等
2. 本人確認資料………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか1通
3. 所得確認資料………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか1通

【注意事項】

1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費(授業料他)等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。

【提携銀行】(代表問い合わせ支店)

三井住友銀行	渋谷支店お客様相談一課	TEL. 03-3463-0102
みずほ銀行	渋谷中央支店ローン担当係	TEL. 03-3462-0313
三菱東京UFJ銀行	青山支店お客様相談課	TEL. 03-3409-3211

青山学院大学のグローバル化

現在、大学の国際競争力を強化するための取り組みが各大学で非常に活発になってきています。これらの動きに合わせて、本学においても、ここ10年で国際交流の形が大きく変化を遂げました。これまではアメリカの大学が中心だった交流も「グローバル」に目を向け、多くの国々の大学と協定を結び、留学生を受け入れるようになってきています。

協定を結んでいる国数でみると、2011年度には10年前の3倍、5年前の2倍となっており、本学で実際に学んでいる留学生の国籍も、10年前の19ヶ国、5年前の22ヶ国から現在の32ヶ国と、出身国の多様化が進んでいます。2008年度からは、本誌第60号(1月発行)に掲載したように、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)との協定を締結し、毎年1名の難民を正規学生として受け入れています。また、2011年度に新設した経営学研究科「戦略経営・知的財産権プログラム」には、アフリカや中近東など多様な国々の留学生が在籍しています。

グローバル化推進のためのさまざまな取り組みは今後も進めていきますが、特に学生の外国派遣を中心とした「グローバル人材育成」に重点を置いていきます。1ヶ月未満の短期留学プログラムは2011年度、18種まで拡充してきましたが、今後は外国滞在中の危機管理体制も強化していく予定です。さらに、多くの学生に長期留学の機会を提供するため、今後は交換留学先としての協定校を充実していきます。しながら長期の交換留学においては、現地の専門科目の授業に参加

して単位を取得する必要があるため、他の留学形態と比べて、参加へのハードルが高くなっています。特に英語圏の場合は、TOEFLやIELTSといった語学能力スコアの提出が必須となっていますが、現在ではこれらの基準があまり高くない協定校に応募が集中し、競争が激化しています。TOEFLやIELTSでの高スコア取得は、現地での環境に溶け込むことが容易となるだけでなく、応募者の少ない協定校への選択肢が増え長期留学の機会が拡大します。大学としても語学能力向上のための支援を充実させていきますが、交換留学を希望する方は事前に綿密な計画を立てて準備をしてもらう必要があります。

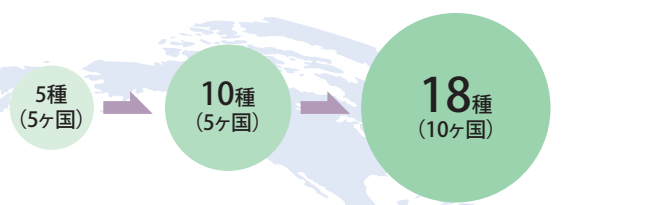
なお、海外に行かずとも、国際交流が体験できる機会をキャンパス内に用意しています。異文化理解・言語習得が体験できるスペース「チャットルーム」では、初級～上級まで、英語、中国語、韓国語、日本語の4ヶ国語のセッションを運営しています(無料、学生ポータルから予約)。英語セッションの場合、主に英語圏からの交換留学生がチャットリーダーとなり、40分のセッションを1日5回実施します。相模原キャンパスの学生もインターネットを利用して参加できるようになっており、2011年度は青山学院全体で延約5600人が利用しました。その他にも、コーヒーミーティングなど外国人留学生との交流イベントも各種開催しています。これらのキャンパス環境を積極的に活用してもらい、ひとりでも多くの学生が、本学の教育理念にもとづいた、広く世界に目を向け、社会に貢献できる人材になっていただきたいと考えています。

グローバル化への変遷(2002▶2007▶2011)

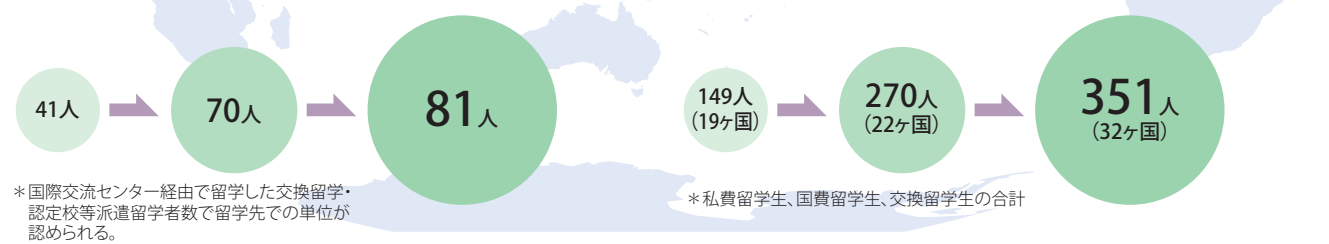
海外大学との大学間協定校数



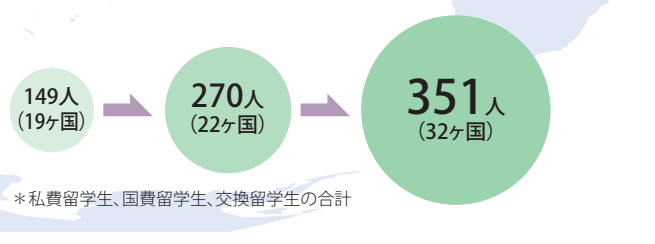
短期留学プログラム数(ただし、大学及び学部主催で1ヶ月未満)



長期派遣留学者数(半年～1年)



受入留学者数



グローバル化へ向けた主な取り組み事例及び実績

・海外協定校の拡充

例：カールトン大学(カナダ)、シェフィールド大学(イギリス)、ジュネーブ大学(スイス)いずれも2010年度協定締結。ビシケク人文大学(キルギス)、イザベラソバーンカレッジ(インド)いずれも2011年度協定締結。

・語学・文化研修等短期留学プログラムの拡充

例：カリフォルニア大学ロサンゼルス校、UCLA(アメリカ)、ビクトリア大学(カナダ)いずれも2011年春季プログラムから開始。

・Facebookを活用した留学生及び留学予定者コミュニティの強化

・コーヒーミーティングや国内文化研修等、国際交流イベントでの外国人留学生との交流活性化
2011年度は約1,200人が参加。

・海外留学オリエンテーション等開催

2011年度は約1,700人が参加。

・海外での日本留学フェアや国内外日本語学校での

本学の広報活動及び留学生入試制度改革

・海外事務所設置

タマサート大学、国立台湾大学内にスタッフ常駐。

・海外の校友との懇親会開催

2010年、2011年上海で実施

・チャットルーム※の4ヶ国語(英語、中国語、韓国語、日本語)での運用により

キャンパス内異文化理解・交流促進

2011年度は初等部から大学院まで延約5,600人が利用

※チャットルームの時間制や予約方法詳細：http://web.iec.aoyama.ac.jp/chat/index.html

2012年度 一般入学試験、 大学入試センター試験利用入学試験志願者数

2012年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験は全ての出願が終了し、志願者総数は55,692名(対前年1731名増、103.2%)となりました。入学試験制度ごとの志願者数は下記のとおりです。

一般入学試験	大学入試センター試験利用入学試験
39,436名(昨年度39,254名)	16,256名(昨年度14,707名)

2012年度 オープンキャンパス開催日程

今年度のオープンキャンパスでは、インターネット・携帯電話等による「事前申込制」を導入します。詳細については、決定次第、本学ウェブサイトにてお知らせします。

開催日	実施 キャン パス	文 学 部	教 育 人 間 科 学 部	経 済 学 部	法 学 部	経 営 学 部	国 際 政 治 経 済 学 部	総 合 文 化 政 策 学 部	理 工 学 部	社 会 情 報 学 部	大 学 院 説 明 会
7月15日(日)	青 山			○	○	○	○				○*
7月16日(月・祝)	青 山	○	○					○			
7月22日(日)	相模原								○	○	○*
8月24日(金)	青 山	○	○				○		○		
8月25日(土)	青 山			○	○	○		○		○	

*大学院説明会は日程により対象となる研究科が異なります。



受験生のための学部説明会

オープンキャンパス学生ボランティア募集!!

オープンキャンパスで受付・案内などの業務をボランティアでお手伝いいただける学生(本学学生のみ)を募集します(5月中旬以降募集予定)。学生ボランティア募集要項の配布、申し込み受付は、決定次第、学生ポータルでお知らせします。ぜひご協力ください。

Club&Circle 11 アイセック

海外インターンシップのサポートを通じて、自分の成長を実感

アイセックでは、青学生を対象に海外インターンシップへの参加機会の提供とサポートを行っています。具体的には、海外の研修先をオンライン上で探したり、インターンシップに向けてのフォローアップイベントの運営などが主な活動です。昨年は約20人の青学生が、アイセックを通じて海外のNGOや企業でインターンシップを行いました。

どうすれば参加者が増えるか、充実した内容になるかを常に考える必要があり、その活動は決して楽ではありませんが、参加者から「楽しかった」「とてもためになった」などのコメントをもらった時にはとても嬉しいし、やりがいを感じます。また、研修先と英語で交渉するなどグローバルな経験ができ、イベント実施にあたっては企画力やコミュニケーション能力も養われるので、自分の成長にもつながっていると感じています。

現在、アイセックのメンバーは42名。アットホームな雰囲気が特徴で、一緒に活動してくれる人はいつでも大歓迎です。そして何より、アイセックを通じて海外インターンシップに挑戦する青学生が、ひとりでも多くなってくれることを心より願っています。

(委員長：国際政治経済学部国際コミュニケーション学科3年 首藤 拓郎)



AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2012青山学院大学

- AGUニュースのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
 - AGUニュースを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
- 事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→学生センター・学生生活グループ



発行元：青山学院 本部広報部
TEL. 03-3409-6578

●2012年3月21日発行●